

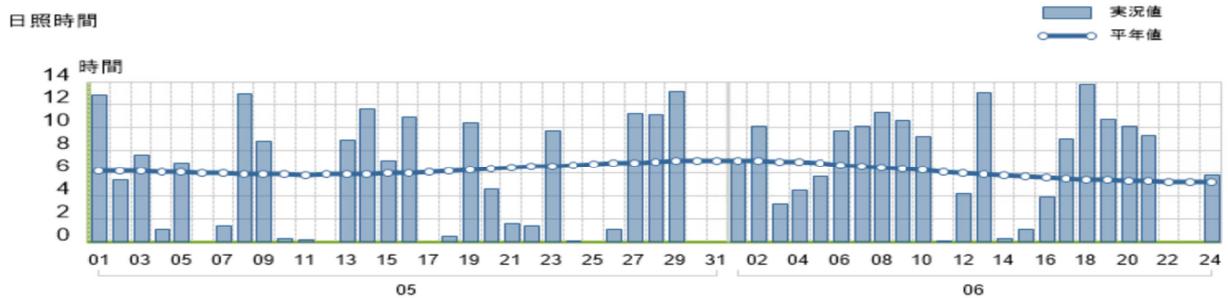
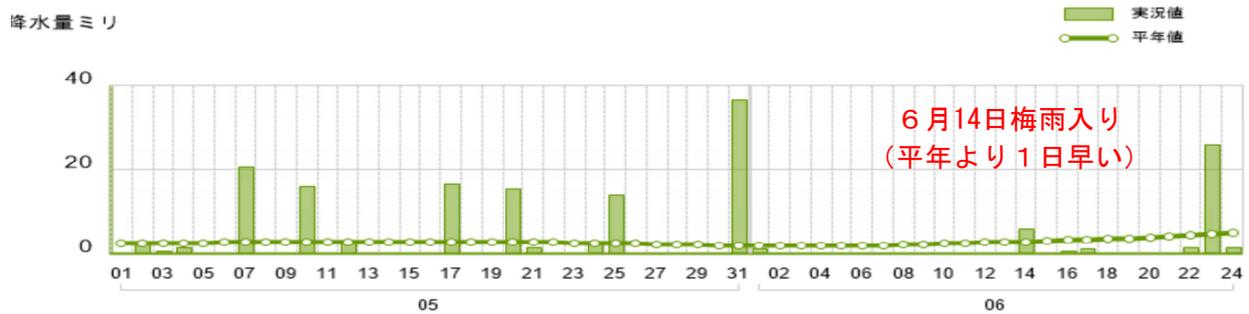
雄勝地域の

稲作だより

令和7年6月25日
 雄勝地域振興局農林部
 農業振興普及課
 TEL 0183-73-5180
 FAX 0183-72-6897

茎数は順調に増加。目標茎数を確保したら速やかに中干し開始！
 ～分けつの確保状況に応じて適切な水管理を～

【これまでの気象経過】（アメダス湯沢：5月1日～6月24日）



	平均気温 (平年差)	積算降水量 (平年比)	積算日照時間 (平年比)
5月上旬	13.3℃ (+0.1℃)	41.0mm (158%)	57.2h (90%)
5月中旬	16.2℃ (+2.1℃)	35.0mm (123%)	54.2h (100%)
5月下旬	15.8℃ (±0℃)	55.0mm (185%)	49.3h (71%)
6月上旬	19.2℃ (+1.3℃)	1.0mm (6%)	81.7h (122%)
6月中旬	22.7℃ (+3.5℃)	7.5mm (20%)	66.2h (112%)

【生育概況】雄勝管内

6月25日現在の定点調査（あきたこまち8か所）では、草丈41.7cm（平年比114%）、茎数412本/m²（同比109%）、葉数8.7葉（同差-0.1葉）、葉色（SPAD値）45.3（同比101%）となっています。平年と比べ、草丈は長く、茎数はやや多く、葉数、葉色は平年並に推移しています。

	6月10日調査結果			6月25日調査結果			
	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
本年	23.2	116	5.4	41.7	412	8.7	45.3
平年	25.1	119	6	36.6	377	8.8	44.8
平年比	92%	97%	-0.6	114%	109%	-0.1	101%
前年	26.6	104	6.3	40.8	416	9.5	45.1
前年比	87%	111%	-0.9	102%	99%	-0.8	100%

※各数値はあきたこまち8カ所の平均値

※平年値は過去10年の平均値

気象は、6月14日に梅雨入りしたものの降水量はかなり少なく、6月2半旬から現在まで高温・多照で推移しています。6月10日の定点調査結果では、初期生育や分けつの発生がやや緩慢だったものの、その後の高温・多照によって、6月25日の定点調査結果では、茎数が平年並～やや多くなりました。

また、5月中に田植え作業が行われたほ場と、春の耕起作業の遅れに伴って6月まで田植え作業が続いたほ場とでは、生育の差が大きくなっています。

分けつ発生のための浅水管理を徹底し、目標茎数を確保できたほ場では、中干しを開始しています。

【当面の主要な技術対策】

1 今後の水管理について

○ 葉数の進んでいるところでは、今後強勢茎の確保は難しいことから、速やかに中干しを実施し、無効分けつの発生を抑制しましょう。

○ 高品質・良食味米の安定生産には、強勢茎（主茎及び1次分けつの3～6号）を主体に穂数を確保することが重要です。m²当たり茎数420本（坪当たり70株植えて1株20本程度）を中干し開始の目安とします。

○ 目標茎数に満たない場合、浅水管理を行い、分けつ確保に努めましょう。

- ① 主茎の葉数が8.1～9.0葉期で6葉目からの分けつが発生した時点が中干し開始の目安です。
- ② 8.5葉期から深水処理による分けつ抑制を行った場合は、9.5葉期を目処に中干しを行います。
- ③ 中干しの期間は7～10日間程度とし、ほ場に軽く亀裂が入り足跡のつく程度とします。なお、水不足が心配されるほ場では、強めの中干しは避けるなど工夫が必要です。
- ④ 中干し始めに溝掘りを行うことで、その後のスムーズな水管理や秋作業に役立ちますので、積極的に実施しましょう。
- ⑤ 茎数が十分に確保できていないほ場では、浅水管理を継続して分けつ確保に努めましょう。また、異常還元（ワキ）による生育停滞が見られるほ場では、一時的に落水（2日間程度）を行い、土壤に酸素を供給して、根の活力維持に努めましょう。

月	5月			6月			7月			8月			9月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
水管理	移植	浅水管理	除草剤散布時は水深を確保	中干し、または深水管理	減分期が低温の場合は深水管理	間断かん水	間断かん水	間断かん水	間断かん水	間断かん水	間断かん水	落水			
	分けつ発生促進			過度の中干しはしない			出穂後10日間は湛水			早すぎる落水は品質低下の要因					

【向こう1か月の天候の見通し（6月21日～7月20日）】：仙台管区气象台、6月19日発表

- 平年と比べ曇りや雨の日が少ないと予想されます。
- 向こう1か月の平均気温は、高い確率が80%です。特に、期間の前半は、かなり高くなる見込みです。
- 降水量は平年並の確率が40%、日照時間は平年並か多い確率がともに40%です。

2 いもち病対策

秋田県病害虫防除所の病害虫発生予察（令和7年6月24日発表）によると、葉いもちの発生時期は平年よりやや早い（前年より早い）、発生量はやや少ない（前年並）となっています。



（1）取り置き苗の早期処分

取り置き苗は、周辺ほ場への「いもち病」の伝染源になりますので、**直ちに泥に埋めて処分**してください。処分が遅れると取り置き苗の中で感染と発病を繰り返し、気象条件が整うと一気に水田内へ伝染し、葉いもちの多発生を誘発します。

（2）葉いもち防除

取り置き苗や水田内で発病を確認した場合は、直ちに、ノンブラス剤、ブラシン剤など、予防剤と治療剤の混合剤を茎葉散布してください。これまでに葉いもち防除剤を使用した場合でも、速やかな防除が必要です。その後、必要に応じてビーム剤を追加散布します。

（3）穂いもち防除

- ① 育苗施設内外の衛生管理が徹底されていて、育苗期の適正ないもち病防除と葉いもち防除を広域的に実施した場合は、基本的に穂いもち防除は必要ありません。
ただし、隣接ほ場に葉いもちが多発している場合は、出穂期～出穂7日後に予防剤（トリアフロアブルまたはラブサイド剤）を茎葉散布します。
- ② 葉いもちの発生が認められたほ場では、出穂15～7日前にコラトップ粒剤またはゴウケツ粒剤／サンブラス粒剤の散布を行うか、出穂直前にトリアフロアブルまたはビーム剤と穂揃期にトリアフロアブルかラブサイド剤を茎葉散布します。

3 水田内の雑草対策

イネ科雑草（ノビエ等）やカヤツリグサ科雑草（ホタルイ類）が水田内で繁茂すると、斑点米カメムシ類による被害が甚大となります。ほ場をよく観察し、雑草が発生しているほ場では中・後期除草剤を早めに使用してください。なお、用水確保が難しいほ場や、中干しに入ったほ場では茎葉散布剤を使用するなど、ほ場の状況に合わせた雑草対策を講じてください。

残草の種類	除草剤名	使用時期	履着剤
ノビエのみ	クリンチャーEW	移植後20日～ノビエ6葉期まで （収穫30日前まで） 使用量100mL/10a 散布液量25～100L/10a	加用
ホタルイ、 コナギ、 オモダカ等	バサグラン粒剤	移植後15～50日まで（収穫60日前まで） 使用量3kg/10a ※落水状態（土が湿っている状態） または浅水状態（0～1cm）で散布	/
ノビエ及び ホタルイ、 コナギ、 オモダカ等	クリンチャーパスME液剤	移植後25日～ノビエ5葉期まで （収穫50日前まで） 使用量1,000mL/10a、散布液量70～100L/10a	不要

（令和7年度版 秋田県農作物病害虫・雑草防除基準より抜粋）

次号の発行は7月上旬です。